

クルアーンの中のイエスとマリアの物語（その2）：イエス（1）

説明： この記事では預言者イエスの生涯、彼の教え、彼が起こした奇跡と彼の弟子たち、そして彼らについてのクルアーンの記述について説明します。

より IslamReligion.com

掲載日時 20 Feb 2012 - 編集日時 20 Feb 2012

カテゴリ： [記事](#) > [比較宗教](#) > [イエス キリスト](#)

カテゴリ： [記事](#) > [比較宗教](#) > [聖母マリア](#)

カテゴリ： [記事](#) > [イスラームの信条](#) > [諸預言者の物語](#)

預言者イエス

“ 言え、「わたしたちは神を信じ、わたしたちに啓示されたものを信じます。またアブラハム、イシュマエル、イサク、ヤコブと諸支部族に啓示されたもの、とモーゼとイエスに与えられたもの、と主から預言者たちに下されたものを信じます。かれらの間のどちらにも、差別をつけません。かれにわたしたちは服従、帰依します。」 ”（クルアーン2章136節）

“ 本当にわれは、ノアやかれ以後の預言者たちに啓示したように、あなたに啓示した。われはまたアブラハム、イシュマエル、イサク、ヤコブおよび諸支部族に（啓示し）、またイエス、ヨブ、ヨセフ、アロンならびにソロモンにも（啓示した）。またわれはダビデに詩篇を授けた。”（クルアーン4章163節）

“ マリアの子メシアは、一人の使徒に過ぎない。かれの以前にも使徒たちがあって、逝ったのである。かれの母は誠実な婦人であった¹。そしてかれら二人は食べ物を食べていた²。見よ、われは如何にかれらに印を明示したかを。また見よ、如何にかれら（不信者）が迷い去るかを。”（クルアーン5章75節）

“ かれ（イエス）は、われが恩恵を施したしもべに過ぎない。そしてかれを、イスラエルの子孫に対する手本とした。”（クルアーン43章59節）

イエスの教え

“ われはかれらの足跡を踏ませて、マリアの子イエスを遣わし、かれ以前（に下した）律法の中にあるものを確証するために、導きと光明のある、福音をかれに授けた。これはかれ以前に下した律法への確証であり、また主を畏れる者への導きであり、訓戒である。”（クルアーン5章46節）

“ 啓典の民よ、宗教のことに就いて法を越えてはならない。また神に就いて真実以外を語ってはならない。マリアの子イエス キリストは、ただ神の

使徒である。マリアに授けられたかれの御言葉であり、かれからの霊である³。だから神とその使徒たちを信じなさい。「三（位）」などと言ってはならない。止めなさい。それがあなたがたのためになる。誠に神は唯一の神であられる。かれに讃えあれ。かれに、何で子がある。天にあり、地にある凡てのものは、神の有である。管理者として神は万全であられる。メシアは神のしもべであることを決して軽んじたりはしない。また（神の）そばにいる天使たちもしない⁴

。かれに仕えることを軽んじ、高慢である者、これらすべての者をかれの御許に集められる。”（クルアーン4章171～172節）

“そのこと（イエスがマリアの子であること）に就いて、かれら（ユダヤ教徒、キリスト教徒）は疑っているが本当に真実そのものである。神に子供が出来るなどということはありません。かれに讃えあれ。かれが一事を決定され、唯「有れ。」と仰せになれば、即ち有るのである⁵

。本当に神は、わたしの主であり、またあなたがたの主であられる。だからかれに仕えなさい。これこそ正しい道である。それなのにかれらの間で、諸宗派が異なる。信じない者こそ災いである。偉大なる日の審判のために。”（クルアーン19節34～37節）

“イエスが様々な明証をもってやって来た時言った。「本当にわたしは、英知をあなたがたに齎し、あなたがたが論争することの、多少の部分をあなたがたのために、説き明かすためである。それで神を畏れ、わたしに従え。本当に神こそはわたしの主であり、またあなたがたの主であられる。かれに仕えなさい。これこそ、正しい道である。」だがかれらの間の諸派は、仲互いした。これら悪を行う者こそ災いである。苦悩の日の懲罰のために。”（クルアーン43章63～65節）

“マリアの子イエスが、こう言った時を思い起せ。「イスラエルの子孫たちよ、本当にわたしは、あなたがたに（遣わされた）神の使徒で、わたしより以前に、（下されている）律法を確証し、またわたしの後に来る使徒の吉報を与える。その名前は、アハマドである⁶。」だがかれが明証をもって現れた時、かれらは、「これは明らかに魔術である。⁷」と言った。”（クルアーン61章6節）

イエスの奇跡

“そこでかの女は、かれ（息子）を指さした。かれらは言った。「どうしてわたしたちは、揺籠の中の赤ん坊に話すことが出来ようか。」（その時）かれ（息子）は言った。「わたしは、本当に神のしもべです。かれは啓典をわたしに与え、またわたしを預言者になされました⁸

。またかれは、わたしが何処にいようとも祝福を与えます。また生命のある限り礼拝を捧げ、喜捨をするよう、わたしに御命じになりました。またわたしの母に孝養を尽くさせ、高慢な恵まれない者になされませんでした。またわたしの出生の日、死去の日、復活の日に、わたしの上に平安がありますように。」（クルアーン19章29～33節）

（「出産の吉報」の中では、もっと多くの奇跡について述べられています。）

神の許しにより天から食べ物を与えられた食卓

“かれら弟子たちが、こう言った時を思い起せ。「マリアの子イエスよ、あなたの主は、わたしたちのために、（食べ物を）並べた食卓を、天から御下しになるであろうか。」かれ（イエス）は言った。「あなたがたが信者なら、神を畏れなさい。」かれらは言った。「わたしたちはその（食卓）で食べて、心を安らげたい。またあなたのわたしたちに語られたことが真実であることを知り、わたしたちが、その証人になることを乞い願います。」マリアの子イエスは（祈って）言った。「神、わたしたちの主よ、わたしたちのために、（食物を並べた）食卓を天から御下しになり、それでわたしたちへの最初の、また最後の機縁となされ、あなたからの印として下さい。わたしたちに食を与えて下さい。本当にあなたは最も優れた養い主です。」神は仰せられた。「本当にわれは、それをあなたがたに下すであろう。それで今後もしあなたがたの中で不信心者となる者があれば、われは世の誰にもまだ加えなかった懲罰で、かれを罰するであろう。」”（クルアーン5章112～115節）

イエスと彼の使徒たち

“信仰する者よ、あなたがたは神の助力者になれ。マリアの子イエスが、その弟子たちに次のように言った。「神の（道の）ために、誰がわたしの助力者であるのか。」弟子たちは（答えて）、「わたしたちが神の助力者です。」と言った。そのさいイスラエルの子孫たちの一団は信仰し、一団は背を向けた。それでわれは、信仰した者たちを助けて、かれらの敵に立ち向かわせた。こうしてかれらは勝利者となったのである。[9](#)”（クルアーン61章14節）

“その時われは弟子たちに啓示して、『われを信じ、わが使徒を信じなさい。』と言った。かれらは（答えて）言った。『わたしたちは信じます。あなたは、わたしたちがムスリムであることを立証して下さい。』”（クルアーン5章111節）

“それからわが使徒を、かれらの足跡に従わせ、更にマリアの子イエスを遣わし、福音を授け、またかれらに従う者の胸に博愛と慈悲の情を持たせた。だが禁欲の修道院制は、かれらが自分で作ったもので、われがかれらにそれを指示してはいない。神の喜びを得たいばかりにしたことだが、かれらはそれも守らねばならないには守っていなかった。それでわれは、かれらの中の信仰する者には報奨を与えた。だがかれらの多くの者は神の掟に背く者たちであった。あなたがた信仰する者よ、神を畏れ、かれの使徒を信じなさい。かれは倍の慈悲を授け、また光明をあなたがたのために設け、それで（正しい道を）歩ませ、またあなたがた（の過去の罪業）を赦される。本当に神は寛容にして慈悲深くあられる。神の恩恵をかれらが少しも左右出来ないことを、また恩恵は神の御手の中にあるということを啓典の民は知るがいい。かれの御心に適う者は、それを授かる。本当に神は偉大な恩恵の主である。[10](#)”（クルアーン57章27～29節）

1 「誠実な婦人」と訳されたこのアラビア語は、最も高い信仰のレベルを表し、これより高い信仰のレベルにあるのは預言者たちだけです。

2 メシアと彼の敬虔な母は2人とも食事を摂っていたのであり、これは飲食を必要としない神の行為ではありません。また飲食をする者は排泄もするのであり、これも神の性質ではありません。ここでイエスは、彼に先駆けた全ての誇り高き預言者たちに相似させられています。彼らの教えは全て同じであり、神の聖なる創造物ではないということも同じです。人間の中で最も榮譽ある位置は預言者であり、イエスは最も偉大な5人の預言者の一人としても数えられています。33章7節、42章13節参照。

3 イエスは神に「あれ」と言われただけで存在したため、神の「御言葉」または「魂」とも呼ばれています。アダムとイブ以外の全ての人間は両親から作られたので、その点に関しては、イエスは特別です。しかしその特性にも関わらず、神ではなく死を迎える生命体であるという点では、他の人々と変わりません。

4 神以外の全てのものや人は、神の崇拝者であり奴隷です。この節はメシアが自らを神ではなく神の崇拝者に過ぎないということを主張したことを証明しています。メシアは神の崇拝者であることを、決して軽蔑したりはしませんでした。なぜならそれは全ての人々が欲する最高の名誉だからです。

5 もしイエスが父親なしに産まれたことで神になるのなら、アダム、イブ、最初の動物たち、山や水を含むこの地球など、イエスのように先祖なしで産まれた全てのものが神ということになります。しかしイエスは地球上の全てのもののように、神が「あれ」と言ったときに存在したのです。

6 預言者ムハンマドの別名。

7 これは二人の預言者イエスとムハンマド（彼らの上に平安あれ）のことを指しえます。彼らが神の教えを人々に説いたとき、彼らは魔法を使っていると責められたのです。

8 預言者の地位は、人々が到達することができるものの内、最も高く榮譽ある地位です。預言者とは天使ガブリエルから神の啓示を受け取る者であり、「使徒」とは神から啓典と法を授かる預言者のことをいいます。イエスは使徒と預言者の両方になることで、最も誇り高い位置を得たのです。

9

信者の勝利はイスラームの教えと共に訪れたのであり、その勝利には肉体的な意味と精神的な意味があります。イスラームはイエスについての疑いを取り除き、彼が預言者であることを証明しました。それが精神的な勝利です。またイスラームの広まりと共に、イエスの教えを信じた者達に避難の場と敵と闘う力を与えました。それが肉体的な勝利です。

10

神は育った環境や人種に関わらず、誰であろうとかれがお望みになる者に導きを与えられます。人々が信じる時、神は彼らに栄誉を与え、彼らを他の人々よりも高い位置に上げて下さいます。そして人々が不信仰に陥るとき、たとえ彼らがそれ以前には栄誉高い人々であったとしても、神は彼らを蔑まれるのです。

この記事のウェブアドレス :

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/622>

Copyright © 2006-2011 www.IslamReligion.com. All rights reserved.